

MINGEI
The Beauty of
Everyday Things

民藝

美は暮らしの
なかに
ある

民藝 MINGEI 美は暮らしの なかにある

【上から】緑黒釉掛分皿 因幡牛ノ戸 1931年頃／流描皿 河井寛次郎 京都 1927-28年頃／
藍鉄絵紅茶器 濱田庄司 栃木 1935年頃 いずれも日本民藝館蔵 Photo: Yuki Ogawa

【観覧料】 前売券 一般 1,000円 大学生 640円

【販売期間】12月10日(日)～2月9日(金)まで 【販売場所】東広島市立美術館、セブンイレブン(セブンコード:103-744)

当日券 一般 1,200(1,000)円* 大学生 800(640)円* 高校生以下無料*

オリジナルグッズセットチケット
宮入圭太 本展オリジナルアート サコッシュ

サイズ(約):本体/横170×縦225mm 持ち手/幅10×長さ1150mm
素材・色:キャンバス、生成
販売価格:2,700円(税込) web申込時には1枚につき
110円(消費税込)の手数料が必要です。
【販売期間】12月10日(日)～3月24日(日) ※なくなり次第終了
【販売場所】セブンイレブン(セブンコード:103-744)のみで販売

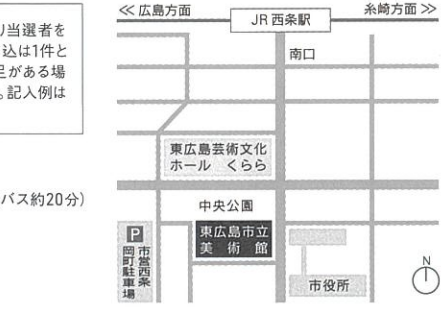
- ② ワークショップ
「おいしい珈琲を淹れて、民藝の器で味わう」
日時:2月17日(土)
【1回目】10:00-12:00/【2回目】14:00-16:00
講師:川上敏雅(OBSURA COFFEE ROASTERS)
会場:1Fアトスペース
定員:各回6名(要申込)
参加費:1,500円 対象:広く一般
締切:2月3日(土)必着
- ③ クロストーク
「民藝の作り手と配り手
一つなぐものたち」
日時:2月24日(土) 14:00-15:30
講師:小谷栄次(倉敷ガラス 職人)、
山本尚意(融民藝店 店主)
会場:1Fアトスペース
定員:40名(要申込・参加無料)
締切:2月10日(土)必着
- ④ 記念講演会
「暮らしのなかの民藝」
日時:3月2日(土) 14:00-15:30
講師:森谷美保(本展監修/美術史家)
会場:1Fアトスペース
定員:40名(要申込・参加無料)
締切:2月17日(土)必着
- ⑤ ワークショップ
「天然藍をつかった染めもの体験」
日時:3月16日(土) 14:00-16:00
講師:前垣佳代(染色家)
会場:1Fアトスペース、藍泉館(賀茂泉酒造敷地内)
定員:10名(要申込)
参加費:1,000円
対象:5歳以上(小学生以下は保護者同伴)
締切:3月2日(土)必着

関連イベント申込方法 往復ハガキまたはwebフォームでお申し込みください

往復ハガキ
の場合
【往信裏面】(1)イベント名(●は希望時間を併記) (2)参加者及び
●は同伴者氏名(同伴者は1名のみとし「同伴者」と明記すること)
ふりがな・年齢 (3)代表者電話番号、住所
【返信表面】(1)干返信先住所、代表者氏名
申込先:東広島市立美術館(〒739-0015 東広島市西条栄町9-1)

Web
フォーム
の場合
※応募多数の場合は厳正なる抽選により当選者を
決定します。/応募は1組1通まで、複数申込は1件と
して取り扱います。/記入内容に不備不足がある場
合は無効といたしますのでご了承ください。記入例は
当館HPよりご確認ください。

東広島市立美術館
HIGASHIHIROSHIMA CITY MUSEUM OF ART
アクセス [電 車] JR山陽本線「西条駅」南口から約400m(徒歩約10分)
[新幹線] JR山陽新幹線「東広島駅」から「西条駅」行バス「中央公園前」下車すぐ(バス約20分)
[自動車] 山陽自動車道「西条インターチェンジ」から約7分
※車でご来館の際は近隣の駐車場をご利用ください。
市営「西条岡町駐車場」をご利用の方は駐車場料金が2時間無料になります。



MINGEI

2024 2/10 sat.
- 3/24 sun.

【開館時間】9:00-17:00(入館は閉館30分前まで) /
2月10日(土)は10:00開館 /
2月24日(土)、3月23日(土)は19:00まで開館

【休館日】月曜日(ただし2月12日[月]は開館、2月13日[火]休館)

【主催】東広島市立美術館、中国新聞社、朝日新聞社、東映
【特別協力】日本民藝館
【協力】静岡県立芹沢誠介美術館、カトーレック
【後援】NHK広島放送局、中国放送、広島テレビ、
広島ホームテレビ、テレビ新広島、広島エフエム放送、
(株)広島リビング新聞社、プレスネット、KAMONケーブル、
FM東広島89.7MHz、尾道エフエム放送

東広島市立美術館
HIGASHIHIROSHIMA CITY MUSEUM OF ART



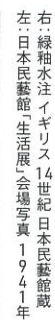
上:(左から)染付羊歯文湯呑、染付蠟燭文湯呑、染付雨降文猪口 肥前有田 江戸時代 18-19世紀/塗分皿 江戸時代 18世紀
下:(左から)角酒瓶 小谷眞三 倉敷 1979年、酒瓶 小谷眞三 倉敷 1985年頃、栓付瓶 メキシコ 20世紀中頃
いずれも日本民藝館蔵 Photo: Yuki Ogawa

ウィズこどもデーで2割引 会期中毎週土曜日、高校生以下のこどもを同伴する
一般・大学生の方2名まで当日料金2割引になります。

【展覧会公式サイト】 <https://mingei-kurashi.exhibit.jp/>
【展覧会公式SNS】 @mingeiten @mingeiten

約 100年前に思想家・柳宗悦は日常生活のなかで用いられてきた手仕事の品々に美を見出し、「民衆の工藝＝民藝」の考えを唱えました。日々の生活のなかにある美を慈しみ、素材や作り手に思いを寄せる、この「民藝」のコンセプトはいま改めて必要とされ、私たちの暮らしに身近なものとなりつつあります。本展では、民藝について「衣・食・住」をテーマにひも解き、暮らしで用いられてきた美しい民藝の品々約150件を展示します。また、いまに続く民藝の産地を訪ね、そこで働く作り手と、受け継がれている手仕事を紹介します。さらに、2022年夏までセレクトショップBEAMSのディレクターを務め、現在の民藝ブームに大きな影響を与えてきたテリー・エリス／北村恵子(MOGI Folk Art ディレクター)による、現代のライフスタイルと民藝を融合したインスタレーションも見どころのひとつです。

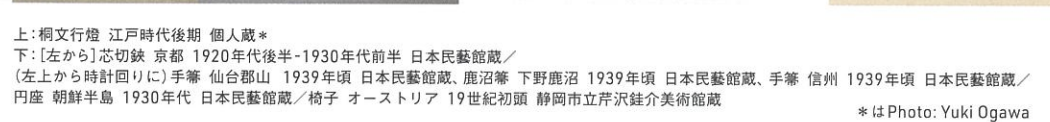
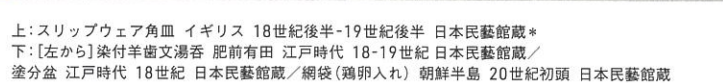
1941(昭和16)年、柳宗悦は自身が設立した日本民藝館(東京・目黒)で「生活展」を展開。民藝の品々で室内を装飾し、いまでいうテーブルコーディネートを展示しました。暮らしのなかで民藝を活かす手法を提示した、モデルルームのような展示は当時珍しく、画期的でした。第I章では実際に出品された作品を中心に、「生活展」の再現を試みて、柳が説いた暮らしの美を紹介します。



柳宗悦は、陶磁、染織、木工などあらゆる工芸品のほか、絵画や家具調度など多岐にわたる手仕事の美を、日本のみならず、朝鮮半島、中国、欧米などの各国に訪ね、集めました。時代も古くは縄文時代から、柳らが民藝運動を活性化させた昭和にいたるまで幅広く、とりわけ同時代の、国内各地で作られた日常用品に着目し、それらを積極的に紹介しました。第Ⅱ章では民藝の品々を「衣・食・住」に分類し、それぞれに民藝美を見出した柳の視点をひも解きます。

柳宗悦は、陶磁、染織、木工などあらゆる工芸品のほか、絵画や家具調度など多岐にわたる手仕事の美を、日本のみならず、朝鮮半島、中国、欧米などの各国に訪ね、集めました。時代も古くは縄文時代から、柳らが民藝運動を活性化させた昭和にいたるまで幅広く、とりわけ同時代の、国内各地で作られた日常用品に着目し、それらを積極的に紹介しました。第Ⅱ章では民藝の品々を「衣・食・住」に分類し、それぞれに民藝美を見出した柳の視点をひも解きます。

柳が説いた生活のなかの美、民藝とは何か、そのひろがりと今、そしてこれからを展望する展覧会です。

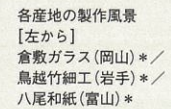


第Ⅲ章：ひろがる民藝——これまでとこれから

柳宗悦の没後も民藝運動は広がりを見せました。濱田庄司、芹沢銈介、外村吉之介が1972(昭和47)年に刊行した書籍『世界の民芸』では、欧州各国、南米、アフリカなど世界各国の品々を紹介。各地の気候風土、生活に育まれたプリミティブなデザインは民藝の新たな扉を開きました。

一方、民藝運動により注目を集めた日本各地の工芸の産地でも、伝統を受け継いだ新たな製品、職人たちが誕生しています。本展では国内5箇所の産地で継承されてきた民藝の品々や、そこで働く人々の「いま」を紹介します。

そして、本章最後では、現在の民藝ブームの先駆者ともいえるテリー・エリス／北村恵子(MOGI Folk Artディレクター)の愛蔵品や、世界各地で見つけたフォークアートと現代の暮らしを融合した「これからの民藝スタイル」を、インスタレーション展示で提案します。



関連イベント ① オープニングトーク「日々の暮らしを豊かにするコツ—民藝と手仕事の魅力」

本展最終章のインスタレーションを手掛けているMOGI Folk Artのお二人に、山陽山陰をはじめとする現在の作り手との交流にまつわるお話や、実際に生活の中で取り入れている民藝の品々への思いなどをうかがいます。

日時: 2月10日(土) 14:00-15:30
会場: 1Fアトスペース 定員: 40名(要申込・参加無料)
ゲスト: テリー・エリス / 北村恵子 (MOGI Folk Art ディレクター)
締切: 1月27日(土) 必着 ※申込詳細は裏面をご覧ください。

MOGI Folk Art 東京・高円寺でMOGI Folk Artを主宰する
テリー・エリスと北村恵子は、セレクトショップ
BEAMSのバイヤーとして活躍していた1990年代から、民藝運動
とも関わりの深い日本の手工芸品を、服飾と北欧インテリアと組み合
わせて紹介してきました。BEAMS内のレーベル「fennica」の立ち上
げから、2022年にMOGIとして新たなショップをオープンするに至るま
で、「デザインとクラフトの橋渡し」をテーマに、国内の産地を回って見
出したトラディショナルな民藝・工芸の品々を現代的な暮らしのなかで
活用する方法を提案。作り手との交流を通じて、伝統的な技法やモチ
ーフを活かしたオリジナルの別注品も数多く生み出しています。

▶MOGI Folk Artキュレーターの
テリー・エリス（左）と北村恵子（右）

